

ベストクラス候補選定理由書

作成者：山中一英 岸田恵津 中西あつ子 木澤直子 田中里奈

科目名称 養護の基本		(担当教員名：加納史章)
課程：学部	開講時期：後期	
授業形態：講義	授業規模：30人以下	
インタビュー対象教員名 加納史章 (実施日時：7月22日(月)14:50～15:50；実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
インタビュー対象受講者名 平野彩花 (実施日時：8月28日(水)14:50～15:30；実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
<p>選定理由</p> <p>本授業では、社会的養育責任と職業倫理への自覚の芽生えとして、社会的養護の意義や歴史的背景をふまえながら、制度や体系などの基礎理論について学ぶとともに、当事者視点・心理理解から社会的養護の現状や課題に対して求められる専門性、関係機関との連携・チーム実践について思考することが企図されている。</p> <p>授業評価での自由記述ならびに担当教員と受講者へのインタビュー調査から、このねらいを達成すべく種々の取組が実践され、受講者もそこに積極的に関与している様子が見えられた。</p> <p>1. ワークシートを介した教員と受講者の継続的なインタラクション</p> <p>授業評価のなかで受講者は「毎回感想や質問を書くと、事細かく丁寧に返事や回答をしてもらえた」「深く考えることができた」と記述し、インタビューにおいても同様の語りが得られた。問いかけが工夫された各回のワークシートに表現される受講者の思考に、教員がコメントを重ねていく。そして、それがときに全体で共有される。こうしたきめ細かなインタラクションの継続が、受講者には「嬉しい」「やる気がでる」という感情を、教員には「学生に応えたい」といういっそうのやりがいをもたらすことになったと考えられる。なお、この取組は、過去にベストクラスに選定され公開された他教員の授業を参考に考案したものであると教員が語ったことを付記しておきたい。</p> <p>2. 連携する関係機関のプロジェクト活動への参加を通して学ぶ体験学習</p> <p>加東市児童館から「児童館まつり」において保護者向けの催し物を準備してほしいとの要請を受け、受講者はグループを構成してそれに参加することとなった。そこで自分たちは何をどんなふうにしたいのか、受講者は自ら協議して決めていった。また、受講者の語りによれば、そのプロセスにあって教員は、各グループを巡りながら適宜アドバイスをしてくれた、基本的に受講者の考えを尊重してくれたとのことであった。そして、この取組は、子どもとかわかれても保護者とかわかる機会はないという保育士養成に既存する課題をふまえてのものでもあった。なお、この試みは、現実のプロジェクト活動に責任をもって参加しながら学ぶ「PBL (project-based learning)」の一つのかたちとして位置づけることができると考えられた。</p> <p>他にも、養子縁組にかかわって判断が分かれるような討議課題が設定されたり、虐待の現実を知ることができる映像が活用されたりした。そこには、本授業がねらいとする社会的養護への受講者の積極的な関与とそれをめぐる深い思考の促進という一貫した企図が認められ、授業評価での自由記述やインタビューでの受講者の語りは、いずれにおいてもそれが奏効していたことを示す証左になると考えられた。</p> <p>受講者は、本授業がいかに楽しくてためになる授業であったか、持参した配付資料をもとにその時々の自らの気持ちに思いを馳せながら、私たちにいきいきと語ってくれた。その姿がとても印象的であった。</p> <p>以上のことから、本授業を平成30年度開講科目におけるベストクラスの候補として推薦する。</p>		